

Publication of Unexamined Utility Model Application
No. 57-158247

Request for Utility Model Registration

March 30, 1981

Commissioner of Patent Office

Title of the Device: Audio Packet Exchange System

Creators of the Device

- (1) Name : Michio Suzuki
Address: c/o System Research & Development Institute
Hitachi, Ltd.
1099, Ouzenji, Tama-ku
Kawasaki-shi, Kanagawa
- (2) Name : Matsuaki Terada
Address: c/o System Research & Development Institute
Hitachi, Ltd.
1099, Ouzenji, Tama-ku
Kawasaki-shi, Kanagawa
- (3) Name : Minoru Sugano
Address: c/o Totsuka Plant
Hitachi, Ltd.
216, Totsukamachi, Totsuka-ku
Yokohama-shi, Kanagawa
- (4) Name : Ryuichi Toya
Address: c/o Totsuka Plant
Hitachi, Ltd.
216, Totsukamachi, Totsuka-ku
Yokohama-shi, Kanagawa

Applicant

Representative: Hiroyoshi Yoshiyama
Name : Hitachi, Ltd. (510)
Address : 5-1, Marunouchi 1-chome
Chiyoda-ku, Tokyo 100

Attorney

Name : Toshiyuki Usuda
(Patent Attorney; 7237)
Address : c/o Hitachi, Ltd.
5-1, Marunouchi 1-chome
Chiyoda-ku, Tokyo 100
Tel. 03-435-4221

List of Attached Documents

(1) Specification	1 copy
(2) Drawings	1 copy
(3) Power of Attorney	1 copy
(4) Copy of Request for Utility Model Registration	1 copy

[Claim of Utility Model]

In an audio packet exchange system for converting, at an audio packet transmission side, an audio signal which is an analog signal into a digital signal, then detecting parameters including characteristics of a talker's vocal tract, amplitude and pitch to make the signal a digital signal of a small bit rate, forming an audio packet from data of a certain unit time period and sending it to a packet exchange network, while at an audio packet receiving side, providing a dispersion absorbing buffer for compensating dispersion in transmission-delay time of audio packets to be received, temporarily storing the packets in the buffer, retaining for a long period of time the audio packets having short transmission-delay time in the dispersion absorbing buffer and holding for a short period of time the audio packets having long transmission-delay time in the buffer, thereby enabling smooth audio reproduction, the audio packet exchange system being characterized in that when voice is reproduced using the parameters in the audio packets at the receiving side, and the number of audio packets in the dispersion absorbing buffer decreases by changing an audio reproduction speed, the audio reproduction speed is slowed down to reduce the possibility of a break in voice due to a condition that the audio packets in the dispersion absorbing buffer run out, while when the number of audio packets in the buffer increases, the reproduction speed increases to reduce the possibility of overflow of the audio packets in the buffer, thereby lowering the loss rate of the audio signals.

GHL 5/00
15



6,000円

15

実用新案登録願

昭和56年3月30日

特許庁長官 殿

考案の名称

音声パケット交換システム



考案者

神奈川県川崎市中原区玉祖寺1099番地
株式会社 日立製作所 システム開発研究所内

氏名

木 三知勇

実用新案登録出願人

住所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

名前 (510) 株式会社 日立製作所

代表者 吉山 博吉

代理人

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

株式会社 日立製作所内

電話東京 436 4221

氏名

(7237) 井上 薄田 利幸

添附書類の目録

- (1) 申 題 書 1通
- (2) 図 形 書 1通
- (3) 現 状 書 1通
- (4) 実用新案登録細則副本 1通



56 043300

第 562
158247

BEST AVAILABLE COPY

明細書

考案の名称 音声パケット交換システム

実用新案登録請求の範囲

音声パケットの送信側において、アナログ信号としての音声信号をデジタル信号に変換したのち、話者の声道の特徴、振幅、およびピッチなどのパラメータを抽出することにより、少ないビットレートのデジタル信号としたのち、ある単位時間のデータから音声パケットを構成したのちパケット交換網に送信し、一方音声パケットの受信側においては、受信する音声パケットの伝送遅延時間の分散を補正するために、分散吸収バッファを設けて、受信パケットを一時分散吸収バッファに蓄積し、伝送遅延時間が小さな音声パケットは長い時間分散吸収バッファ内に保留し、逆に伝送遅延時間が大きなものは短い時間のみ分散吸収バッファ内に保留することにより、滑らかな音声再生を可能とする音声パケット交換方式において、受信側が音声パケット内のパラメータから、声を再生する場合に、音声の再生速度を変更すること

(1)

563

158247

BEST AVAILABLE COPY

により、分散吸収バッファ内の音声パケット数が減少した場合には、音声の再生速度を遅くすることにより、分散吸収バッファ内の音声パケットがなくなることによる音の跡切れの確率を減少し、逆に分散吸収バッファ内の音声パケット数が増加した場合には、再生速度を早くすることにより、音声パケットの分散吸収バッファのオーバフローの確率を減少することにより、音声信号の劣失率を小さくすることを特徴とする音声パケット交換システム。

考案の詳細を説明

本考案は、パケット交換方式を用いて音声通信を行なう音声パケット交換方式に関するものである。

データ通信を目的として開発されたパケット交換方式を用いて、音声通信を行なう音声パケット交換システムが提案され、供されている。この音声パケット交換システムでは、有音か無音かの検出を行なうことにより有音のみパケット化してパケット交換網に送信すること、または音声信号を

(2)

564

帯域圧縮する方法などを用いることにより、パケット交換網の負荷を軽減し得る特徴をもつ。

しかし、一方、パケット交換網においては、パケットの網内伝送遅延時間が各パケット毎にバラツキ分散するため、受信側において音声再生を行なう場合、一つの音声パケットを再生した時点で、次に再生すべき音声パケットが未到着となつたり、或いは、短かい時間間隔で数多くの音声パケットが到着し受信バッファのオーバフローなどが起るため、受信側での再生音声に音のと切れなどが避けられないという欠点があつた。

従つて本考案の目的は、上述した従来技術の欠点を低減するために、受信側において、音声再生時に受信バッファ内の音声パケット数が減少してきた場合は、再生速度を遅くし、また受信バッファ内の音声パケット数が増加して来た場合は、再生速度を速くする機能を持たせることにより、再生音のと切れの確率を低減し得る手段を提供することである。

以下、図面を用いて本考案の実施例を詳細に説

(3)

565

BEST AVAILABLE COPY

明する。

第1図は、本考案を実現するための一つの実施例を示すプロック概念図である。本図において、1は電話機、2は音声パケット端末、3は伝送路である。伝送路3はパケット交換網に接続されている。

音声パケット端末2は、機能的には、一点端末を境にして、電話機1からの音声信号を音声パケット化してパケット交換網に送信するパケット送信部2-1と、パケット交換網から受信する音声パケットを元の音声信号に再生するパケット受信部2-2とからなる。電話機1からの音声信号はA-D変換器4 ICより、64Kbpsのデジタル信号に変換されたのち、PARCUII分析回路5により音声の特徴抽出が行なわれ、声道の特徴、声道の振動数、および振幅等を表わすパラメータが出力される。このとき、音声は4.8Kbps程度に圧縮される。パケット化回路6は5からの出力データから音声パケットを作成し、パケット送信回路7に送り、パケット送信回路7は、HDLC通信

(4)

566

BEST AVAILABLE COPY

制御手順のもとで、パケット交換網に送信する。

パケット交換網からの音声パケットは、パケット受信回路10において受信され、分散吸収バッファ11に一時蓄積される。音声パケット交換においては伝送遅延時間の分散を吸収するために、伝送遅延時間の小さな音声パケットは長い時間分散吸収バッファに保留し、逆に伝送遅延時間の大きな音声パケットは短い時間分散吸収バッファに保留することが必要である。そのため、分散吸収バッファ内の音声パケット数は、伝送遅延時間の小さな音声パケットが連続した場合は増加し、伝送遅延時間の大きな音声パケットが連続した場合は減少する。

本考案の特徴は、この分散吸収バッファ11内の音声パケット数の増減に応じて、音声の再生速度を制御する再生速度制御回路12を設けた点にある。第2図および第3図を用いて、再生速度制御回路12の機能と、本発明による効果を説明する。

第2図は、分散吸収バッファ11を示し、①、

(5)

567

BEST AVAILABLE COPY

② ……、は、音声パケットに対応する。音声パケットは受信されると、空いていれば左側から順につめられる。PARCOR 音声合成回路 13 は分散収取バッファ 11 から順次再生すべき音声パケットを取り出し、音声パケット内の各補バーメータから 64Kbps のデジタル信号を作成し、D-A 変換回路 14 に送信する。D-A 変換回路 14 はこのデジタル信号から元のアナログ信号である音声信号を再生して運動機 1 に送信する。

本考案の特徴を構成する再生速度制御回路 12 は、分散収取バッファ 11 内の音声パケット数の変化に応じて、つまり、11 内の音声パケット数が例えば 3 コ（第 2 図の 16 で示す）に減少した時点で、PARCOR 音声合成回路 13 に対して、音声の再生速度を遅くするように指令する。

PARCOR 音声合成回路 13 は、音の高低に変化を与えることなく、音声再生速度を変えることが可能である。また、分散収取バッファ 11 内の音声パケット数が 10 コ（第 2 図の 17 で示す）に増加した場合、再生速度制御回路 12 は、

(6)

PARCOR 音声合成回路 1 3 に対して、音声の再生速度を早くするよう指令する。分散吸収バッファ内に音声パケット数が減少した場合に音声の再生速度を遅くする理由は、1 1 内の残りの音声パケットの再生終了までの時間を大きくすることにより、次にパケット交換網から受信する音声パケットの到着までの待ち時間を大きくするためであり、逆に 1 1 内の音声パケット数が増加した場合に、音声再生の速度を早くするのは、伝送遅延時間の小さな音声パケットが続き、分散吸収バッファ 1 1 内の蓄積可能個数を超えることによるオーバーフローを減少するためである。

上記のうち、音声パケット数が減少した場合の効果について、第 3 図を用いて説明する。第 3 図は、(a) が音声パケットの送受信のモデル図、(b) は (a) の場合における従来方式の再生時の音声パケット個数の変化の例を示し、(c) は (a) において本考案の方式を適用した場合の音声パケット個数の変化の例を示す。第 3 図において、各音声パケット 1 8 - 1 ~ 1 8 - 5 の到着時刻を 11, 12, ...

(7)

569

BEST AVAILABLE COPY

で示し、従来方式における音声再生時刻を
 T_1 で示し、本考案の場合の音声パケットの再生
 時刻を T_1' で示す。音声パケット18-1が時
 刻 t_1 で到着し、その結果受信側の音声パケット
 数は4コになる。従来方式の場合、即ち(b)の場合、
 時刻 T_1, T_2, T_3, T_4 と経過するにつれて、
 音声パケット数は順次減少し、時刻 T_4 で0とな
 り、音声再生ができなくなり、音声はと切れるこ
 とになる。音声パケット18-2は、時刻 t_1 に
 到着するが、既に該音声パケットの再生時刻 T_1
 を経過しているため、音声パケット18-2は発
 術される。音声パケット18-3も同様である。
 音声パケット18-4は時刻 t_1 に到着するが、
 再生すべき時刻 T_1 より前であるから、分散吸収
 パソフア11に蓄積され、時刻 T_1 から再生され
 る。さらに音声パケット18-5が時刻 t_1 に到
 着し、受信側の音声パケット数は2コに増加し、
 時刻 T_1 において音声パケット18-4の再生を
 終了し、18-5の再生に移る。この例において
 は、時刻 T_1 と T_1' との間ににおいて音声がと切れ

(8)

570

ることになる。

次に(c)の場合をみると、時刻 T_1 において、一つの音声パケットの再生を終了するが、このときの分散吸収バッファ 1.1 内の音声パケット数は 3 つに減少する。本考案の特徴である再生速度制御回路 1.2 は、ここで PARCOR 音声合成回路 1.3 に対して音声再生速度を遅くするよう制御するため、図に示すように、音声パケットの再生時間が $L (> l)$ となる。本例では、 $L=1.2$ の場合を示す。そのため、音声パケット 1.8-2 の到着時刻 t_1 においても、前音声パケットの音声再生が行なわれているから、音声パケット 1.8-2 を飛ばす必要がなく、(d) のように T_1 と t_1 の間に音との切れが生じなくなる。

上記の例では、分散吸収バッファ内の音声パケット数が減少した場合を示したが、逆に音声パケット数が増加した場合も、同様な効果を得ることができる。

従来方式において、音声パケット 1.8-2 が時刻 t_1 で到着したとき、すぐに音声を再生すると、

(e)

571

BEST AVAILABLE COPY

音声の切れを短縮することになるが、この時の音声パケット18-2の再生時刻差(1:T₁-T₂)は補正されないため、同じことが繰り返されるとしだいに蓄積され、全体の通話遅延が増加することになる。一方本考案においては、分散吸収バッファ内の音声パケット数が減少した時には、音声再生の速度が遅くなるため、通話遅延が増加するが、逆に分散吸収バッファ内の音声パケット数が大きくなつた場合には、音声再生の速度を早めるため、全体の通話遅延は減少する方向となり、補正し合うことになる。

なお、上記述べた実施例において、第1図のプロツク凶で示すハードウェアによつて実行し得ない部分については、制御回路8でソフトウェア上のプログラム処理をもつて実行することが可能である。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示すプロツク構成図、第2図は分散吸収バッファを示し、第3図は音声パケットの封緘の一例を示すモデル図と、こ

(10)

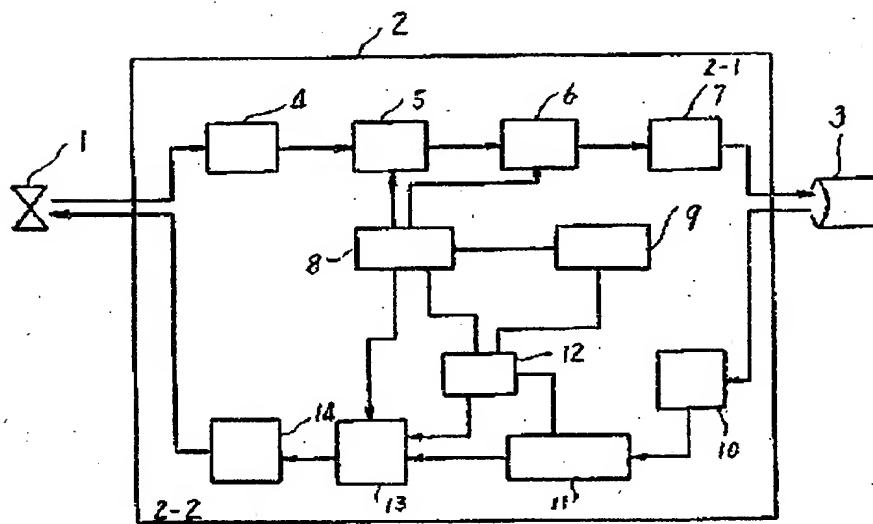
572

のときにおける、従来の方式、および本方式とを示す。

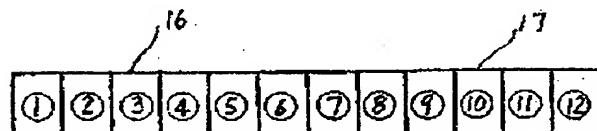
1 … 電話機、2 … 音声パケット端末、3 … 伝送路、
1 1 … 分散吸収バッファ、1 2 … 再生速度制御回路、
1 3 … PARCOR 音声合成回路、8 … 制御回路。

代理人 弁理士 森田利幸

第 1 図



第 2 図

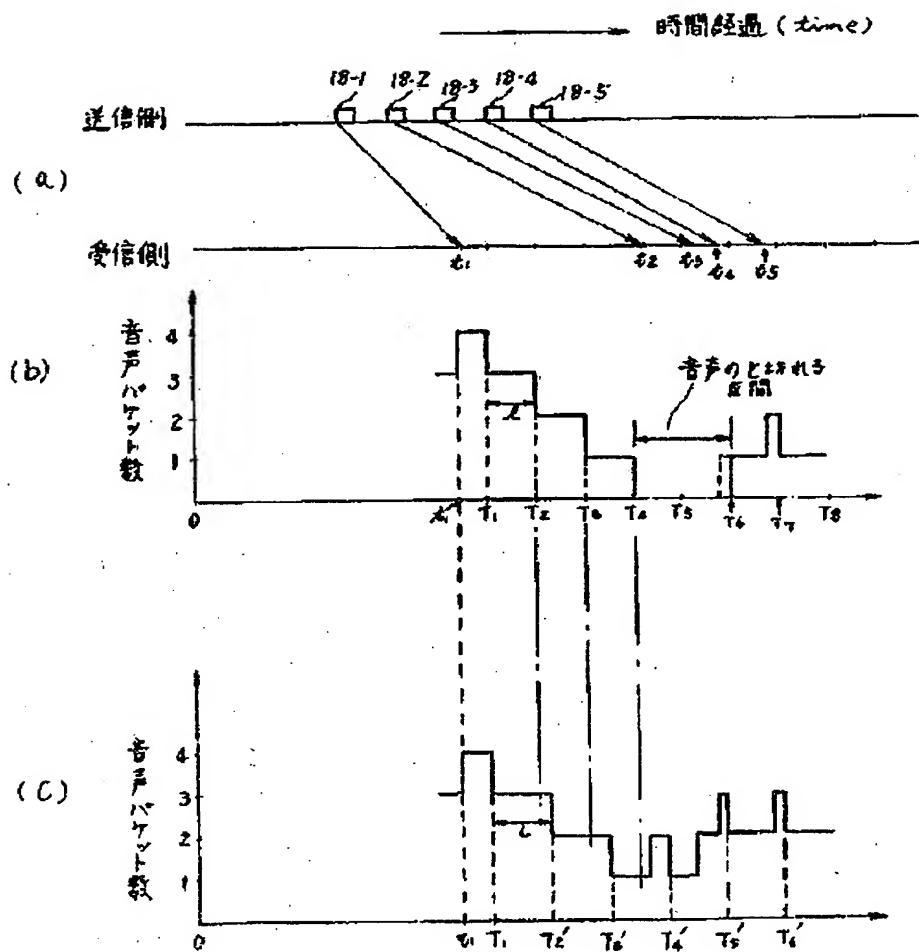


158247

574

代理人弁理士 薄田利幸

第 3 図



15 8 47 2

575

代理人 理士 薄田 利幸

BEST AVAILABLE COPY

前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

考 案 者

住 所 神奈川県川崎市多摩区王禅寺1099番地
株式会社 日立製作所 システム開発研究所内
氏 名 寺 田 松 雄

住 所 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町216番地
株式会社 日立製作所 戸塚工場内
氏 名 管 野 実

住 所 同 上

氏 名 土 坂 隆 一

576

158247